

吉備の弥生集落

ー岡山県南部平野の遺跡群からー

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

山本悦世

はじめに

「吉備の弥生集落」研究 その魅力は？ 榎築遺跡とは

1. 「吉備」地域の地形と遺跡分布

吉備南部：岡山県～広島県東部の南部地域、丘陵と河川下流域に広がる沖積平野

砂川流域／吉井川下流域／旭川下流域／足守川下流域～総社平野／芦田川流域

2. 遺跡と集落、集落景観のとらえ方

・遺跡と集落の関係／弥生時代と縄文時代の集落景観比較（集住する集落の出現）

3. 弥生集落の調査事例

（1）旭川下流西岸域（東西 2 km×南北 5 km程度）

前期は小規模な集落と周辺に広大な水田域

中期後半～後期：北に集住空間と周縁に水田域＋南に小規模集落と水田

【鹿田遺跡】最小単位の集落遺跡

a. 土地形成の復元

中期中葉～後葉における砂の堆積と後期における植物の繁茂＝土地形成の進行と安定

b. 集落構造（竪穴住居・井戸・墓・土坑・土器だまり・溝・水田など）

中期後半：集落成立／後期前半～後半：居住域と水田域／古墳初頭：新たな居住域増

＊井戸・土坑・土器だまり：後期中葉を境に数が変化

c. 後期中葉を境に何がおきているのか？

・集落内での祭祀・手工業生産活動(製塩など)に変化＝他の遺跡でも共通

【津島遺跡周辺遺跡群】鹿田遺跡から北へ約 2 km、2 km四方の範囲に遺跡集中

弥生中期：居住域の拡大→弥生中期後半：南への集落進出＋北に集住空間形成へ

（2）旭川下流東岸域（東西 4 km×南北 2 km）

【百間川遺跡群】東西 4 km×南北 0.5 kmに 4 遺跡

・今谷遺跡（弥生中期中葉の掘立柱建物群）と原尾島遺跡（後期の集住域）

・集住地での手工業生産痕跡多い(ガラス滓・鉄など)・住居規模差

Ex) 原尾島遺跡の例：同時期に 5～8 基の住居

集住地が限定的で、水田と居住域の連続（地形の特徴）

（3）足守川下流域と総社平野

海側に小集落、2 km北に複数のムラが集住する都市的景観、その周囲に農村景観か

【足守川下流域の遺跡群】東西 2.5 km×南北 6 km、丘陵上には榎築遺跡

足守川両岸および東側丘陵上に遺跡

・中期後葉：遺跡数・遺構数急増、平野部と丘陵部に集住を示す複数の遺跡が連続

・後期初頭 集落再編（丘陵部消失・平野部遺跡住居増）

＊前葉：波止場状遺構（上東遺跡）、銅鐸・貨泉・銅釧

・後期中葉 集住域内での変化（津寺遺跡 竪穴住居が 1 棟に激減）

・後期後葉：各地の搬入土器が目立つ

【総社平野の遺跡】東西 5.5 km×南北 2 km程度、足守川流域と連続する位置

南溝手遺跡・窪木遺跡：中期後半に遺構数急増（掘立柱建物群）

後期前葉段階で終了→後期後半は小集落へ 人口流出か

4. 吉備南部の集落景観の特徴

<全体的特徴>

弥生集落：規模の異なる集落の結合体（計画的な空間配置を生み出すベース）

中期後葉…遺跡・住居の急増＝集住形態出現 ←環境変化も一因

後期前葉…集落再編・集住化の進行（平地に住居急増／中断も ※地域に違い）←？

後期中葉前後…手工業面・祭祀面などに変化 ←人為的影響

集落景観：足守川流域と旭川西岸域の類似性、規模の違い

旭川東岸域は？ 手工業関連遺構の存在

→地域間の違い

Ex) 丘陵上への集落形成(集住)：中期後葉…砂川流域と足守川流域

後期前葉…前者は衰退、後者は発展的継続

＊足守川流域の優位性があるのか？

榎築の構築の意味は？

対外交流との関連

挿図引用文献

- ・松木武彦 2013「墓と集落および人口からみた弥生ー古墳移行期の社会変化ー吉備南部を分析対象として」『古代吉備』第 25 集 古代吉備研究会
- ・江見正己 1987「弥生土器」『吉備の考古学』福武書店
- ・桑田俊明 1987「備後の弥生」『吉備の考古学』福武書店

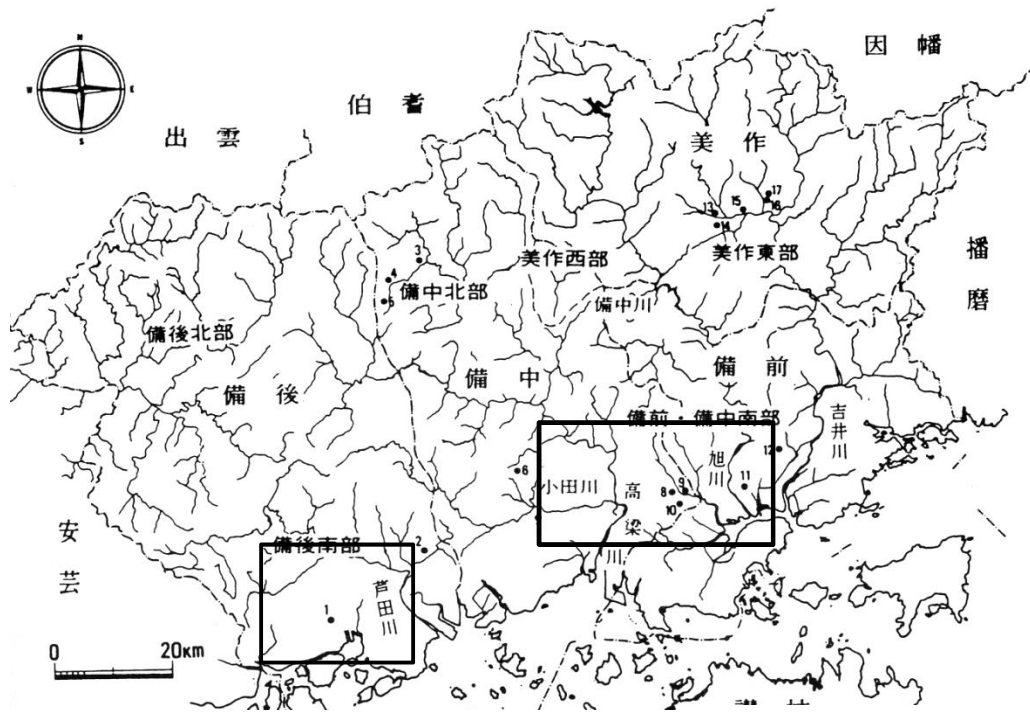


図1 「吉備」地域の範囲
(江見 1987 に加筆)

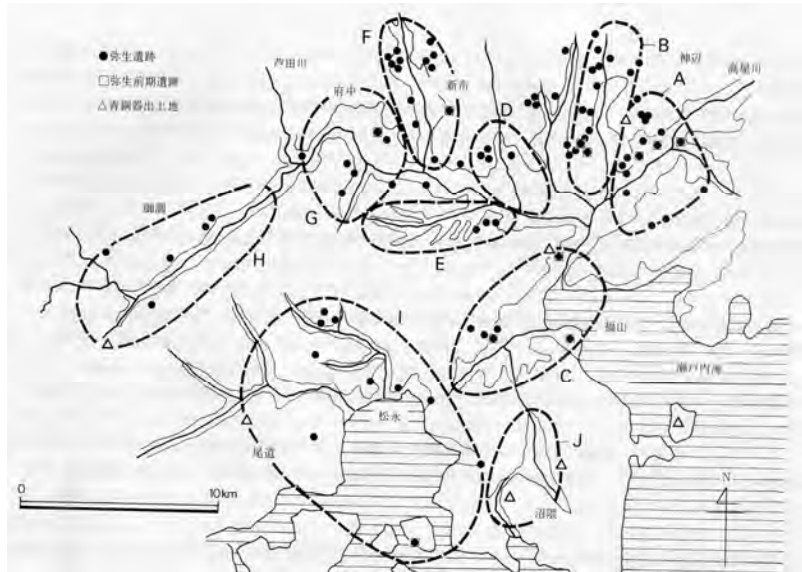


図2 備後南部の遺跡分布
(桑田 1987 から引用)



図3 吉備南部現地形 (Google earth より)

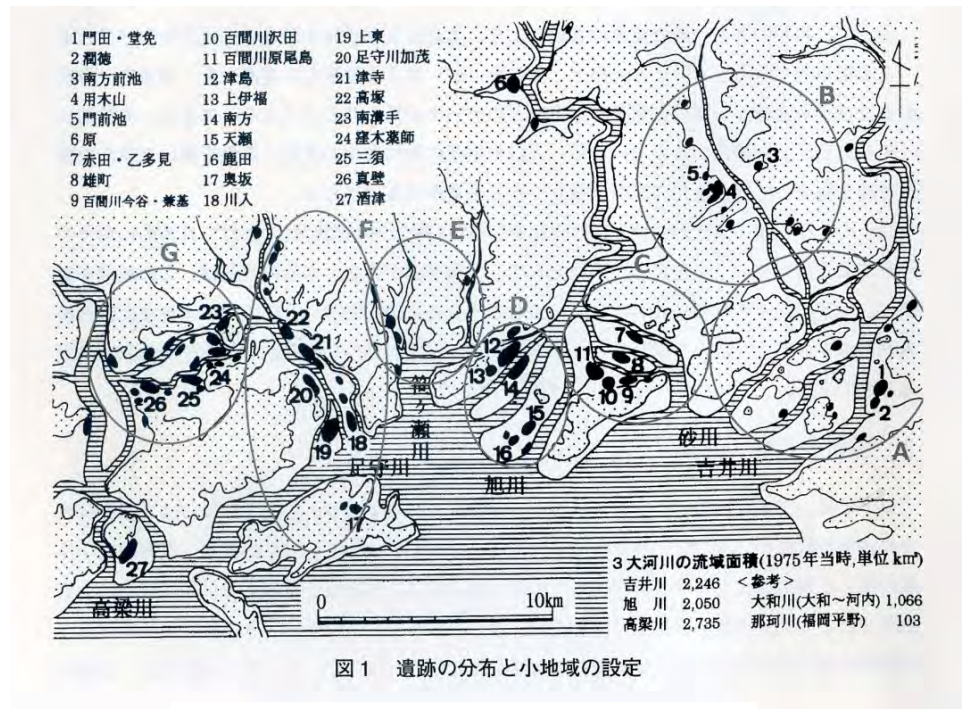


図1 遺跡の分布と小地域の設定

図4 吉備南部の遺跡分布 (松木 2013 から引用)

表1 吉備南部における住居数と掘立柱建物の変遷 (松木 2013 から引用)

地域名	遺跡名	弥生前期			弥生中期			弥生後期			古墳前期		
		前	中	後	前	中	後	前	中	後	前	中	後
A	門前池				1/		22/	10/	4/	2/			
B	用本山						68/40						
	惣園						40/6						
	新宅山						1/						
	倉富						3/	24/	1/	14/1	18/		
C	日黒上山							2/1		15/			
	百間川米田							6/6		8/1	20/18		
	百間川兼基・今谷				4/	7/34	15/25	5/1		9/			
	雄町				2/	1/1	3/	6/	1/	28/20	2/		
	百間川沢田							28/20		34/1	5/		
	百間川原尾島							47/17	51/6				
D	鹿田							5/	7/	11/			
	南方							6/	1/	11/			
	津島							3/	25/	19/	10/		
	津島江道							1/	2/				
	北方基田							2/		1/	5/		
	北方下沼												
	伊福定岡前							31/1	28/				
E	大岩							8/1	/2	8/12	/1		
	田益新田												
	田益田中												
	吉野口												
	中極川												
	下庄												
	上東												
	矢部堀越												
	足守川矢部南向												
	足守川加茂B												
	足守川加茂A												
	前池内・後池内												
	黒住雲山												
F	津寺三本木												
	津寺一軒屋												
	加茂政所												
	高松原古才												
	立田												
	高塚												
	三手向原												
	奥坂												
	天神坂												
G	千引												
	南澤手												
	窪木												
	窪木薬師												
	西山												
	中山												
	井手天原												
	井手見延												
	金井戸新田												
	諸上												
	大文字												
	鯉亀												
	三須高田												
	三須美濃田												
	殿山												
	窪木												
時期の推定実年代		BC600-375			BC375-175			AD25-100			AD100-200		
継続年数概算		275			200			75			100		
時期別住居総数	3	16			52			301			368		
時期別掘立柱建物総数		2			43			152			45		
30年間当たり住居数		1.7			7.8			40.8			120.4		
30年間当たり掘立柱建物数		0.2			6.5			22.8			18		

10棟以上は数値をゴシックで表現した

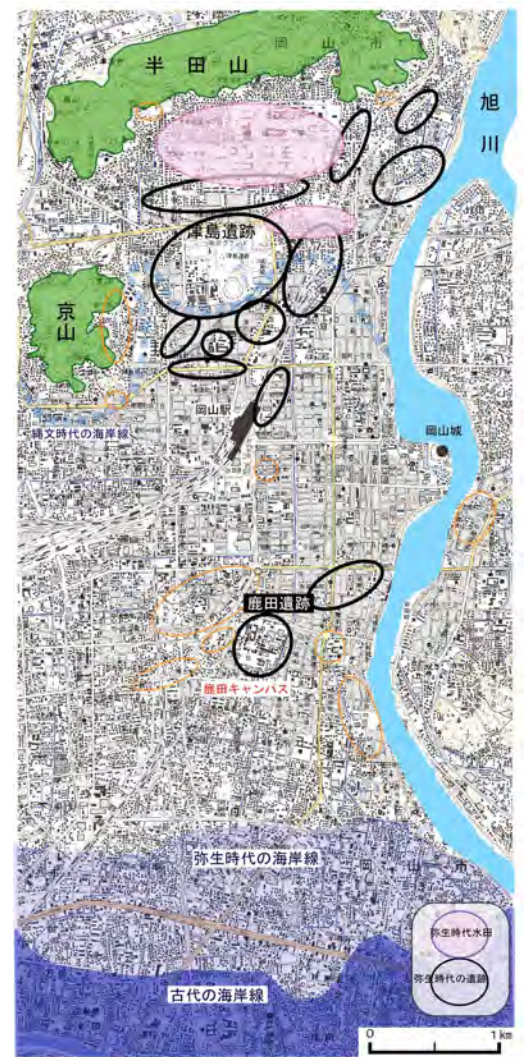


図5 旭川下流域西岸の遺跡

表2 鹿田遺跡遺構一覧

	竪穴 住居	井戸	墓	土器だ まり	土坑		1時期の数			
							段階	竪穴住居	井戸	土坑
中期後葉	2	1	土壙墓2		84	内1製塩	1	2	1	84
後期前葉	8	3	土器棺7・土壙墓2	1	196	内8製塩	4～2.6	2～3	1	49～75
後期中葉	3	3		2	46		2?	3	1	23
後期後葉	4	12	土壙墓2	1	50		2～3	3	3.5	17～25
古墳初頭	13	10		12	37	内1製塩	2～3	5～7	5前後	12～18

※古墳初頭は2カ所に居住域

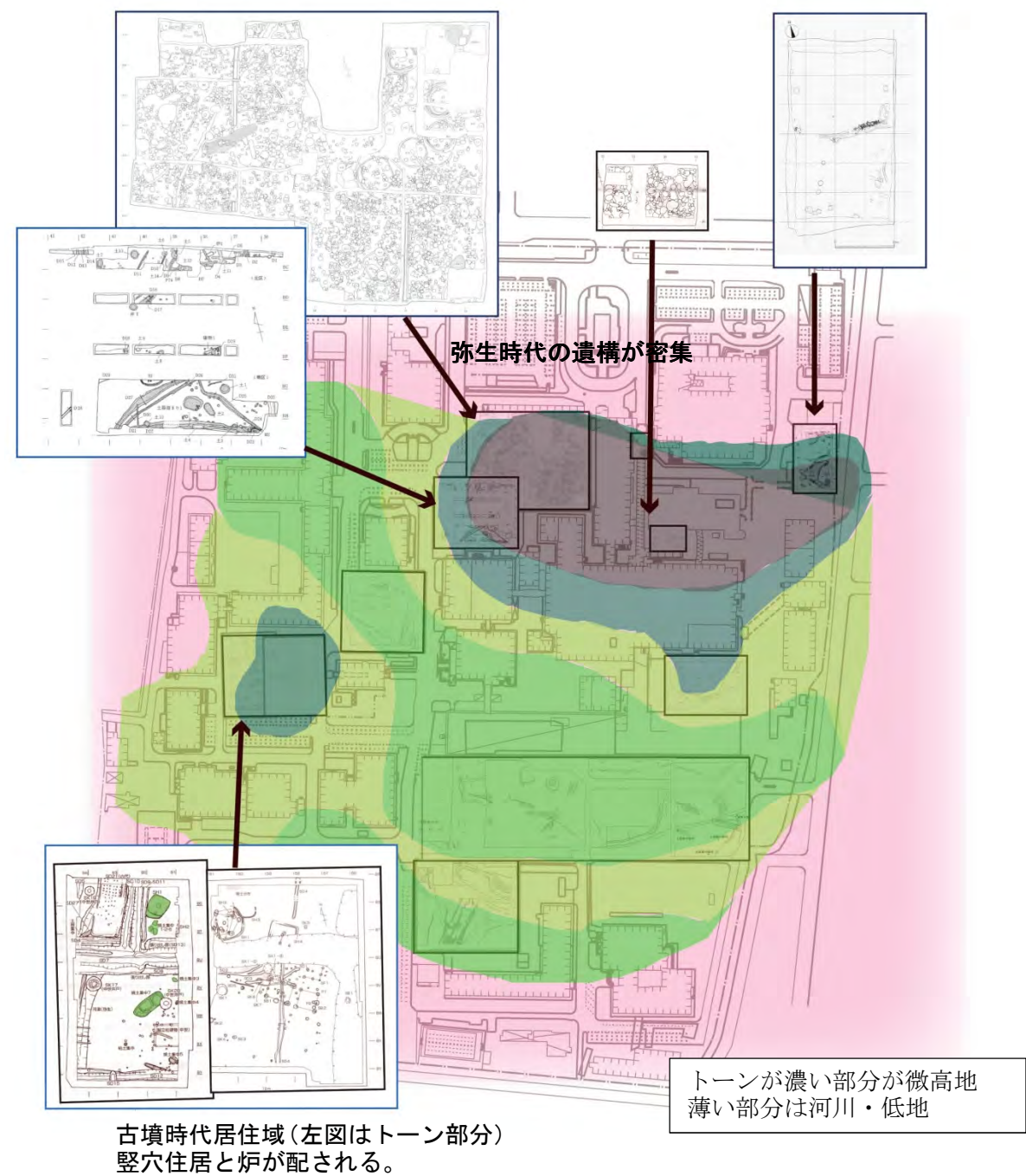


図6 鹿田遺跡の地形と弥生時代遺構の配置